

IKENOBEKAI NEWS

# 池戸会報

香川大学農学部同窓会 池戸会

池戸会

検索

<https://www.bikita.jp/class/index.php?cl=d05997>



苺ファーム森本でのいちご狩り（香川大学農学部学生ボランティアサークルASUS）

特集

開学120周年記念事業でのご支援による整備について  
香川大学農学部学生ボランティアサークルASUS

母校の近況

令和6年 春の勲章・褒章伝達式及び令和6年 春の勲章伝達式

Interview 石井統也先生 同窓生訪問

池戸会本部報告 卒業生のひろば

Vol. **66**  
DEC. 2024

全会員配布

# Contents

特集

開学120周年記念事業  
でのご支援による整備について… 2

香川大学農学部学生ボランティアサークル  
ASUS …………… 4

ご挨拶

池戸会会長 岩田 豊志… 6  
農学部長 小川 雅廣… 7

母校の近況 …………… 8

令和6年 春の勲章・褒章伝達式  
及び 令和6年 春の勲章伝達式 …………… 10

卒業生へのメッセージ ～退職される教員より～  
多田 邦尚 先生 …………… 11  
望岡 亮介 先生 …………… 11

訃報 …………… 12  
岡市 友利 先生  
桑原 正章 先生

プレゼント企画…………… 13  
農学部ロゴ入りスマホスタンド

Interview

「食品の物性やおいしさを決定づける  
要因を探求する」  
石井 統也 先生…………… 14

同窓生訪問 …………… 16  
滝 彰 氏 (学42・修30農業生産)

池戸会本部報告…………… 18

逝去者一覧…………… 22

卒業生のひろば…………… 23  
支部だより

令和5年度会員短信…………… 29

池戸会 Bikitaご利用手順…………… 34

池戸会 クレジット決済の手順 …………… 35

特集

## 開学120周年記念事業 でのご支援による

### 時計の設置

農学部に関連し教育・研究を行っている施設3ヶ所、農学部キャンパス、附属農場、庵治マリステーションに「時計」を設置しました。120年を超える農学部の歴史、これからも同じ時代（とき）を刻み続けるという思いを込めています。



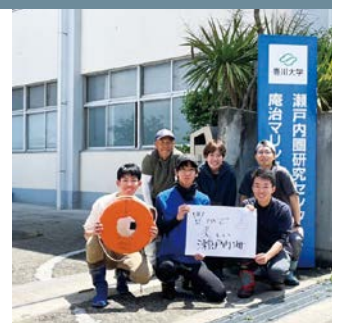
附属農場



農学部キャンパス



庵治マリステーション



# 整備

について

昨年度に開催されました農学部開学120周年記念式典にて、多くの皆さまから多大なご支援を賜りました。改めて厚く御礼申し上げます。総額約416万円のご寄附のうち、式典開催に約262万円を、残りの約154万円を農学部とその関連施設の整備に使用させていただきました。その内容の一部を紹介いたします。

## ベンチの設置

DS棟3階の屋上渡り廊下に「ベンチ」を設置しました。ここから見える白山の風景は今も昔も変わっていません。

成長を続ける農学部にとって、変わらないもの、変えてはいけないものも大事にしていきたいと思えます。

現役の学生たちが、友だちと語らう場所、講義・実験の合間にリラックスする場所、そんな場所になること、OBの方々が農学部を訪れた際に、“ここからの風景は変わらないね”と記念撮影して貰える場所になることを願っています。

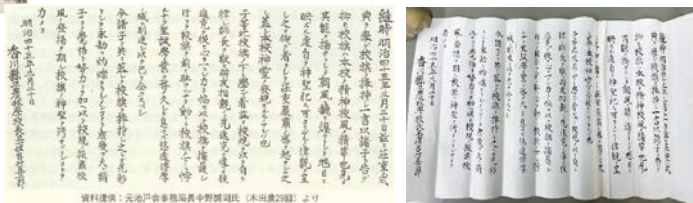


## 香川県立農林学校時代の校旗の展示

池戸会館の1階から2階にあがる階段の踊り場に、香川県立農林学校時代の校旗を展示しました。

池戸会に保管してきたもので、約120年前、香川県立農林学校時代（明治39年（1906年））のものでした。

今回の開学120周年記念事業を通して、あらためて農学部120年を超える歴史の重みを感じることができました。



「開学百周年記念誌」香川大学農学部  
(発行：平成16年3月)より転載

香川大学農学部池戸会所蔵

## 歴史資料室の整備

池戸会館1階の歴史資料室を整備しました。机6台と椅子12脚を購入し、人数に応じてレイアウトの変更が可能です。広報用にディスプレイも設置しておりアーカイブ動画等をご覧いただくこと、また打ち合わせ等の利用も可能です。

そのほか、航空写真、保管している看板等も展示しております。歴史資料室入口前の廊下にもウッドパネルを施工し、お越しいただいた方々に、お気軽に入室いただける雰囲気になっています。

OBの方々を中心に、ご退官された名誉教授等の先生方、現役の教職員・学生等を含めた交流の場としても、ご利用いただければと思います。



## 特集

# ASUS 香川大学農学部学生ボランティアサークル (エーサス)

香川大学農学部の学生サークルASUS (Aggie Student Union Service, エーサス) は、2013年に設立された農学部公認のボランティアサークルであり、2024年現在、3年生12名、2年生25名、1年生26名の総勢63名で活動しています。活動内容としては、地域の子どもたちに対する科学体験教室や収穫体験教室の開講、パウンドケーキなどの商品開発、農学部のオープンキャンパスや収穫祭のサポート、そして、三木町のお祭り「まんで願」や「栗林公園未来会議」への協力など、年間を通じて様々な地域活動や学内活動を行っています。

## ○「科学体験教室」を実施

「科学体験教室」は、大学のサテライトオフィス事業の一環として、年2回(夏期と冬期)、三木町氷上の「サンサン館みき」において、主に小学生を対象に「科学」に関連する事象をテーマに開講しています。実施内容としては、写真に示すように「ケーキの膨らむ仕組み実験」、「ハンカチの染め物実験」、「不思議な水レンズ実験」、「気化熱クリスマスツリー実験」など、数多くの実験を、2014年の教室開催以来、現在までに合計19回の教室を開いて来ています。



科学体験教室に参加の子どもたちの様子



ケーキの膨らむ仕組み実験    ハンカチの染め物実験    不思議な水レンズ実験    気化熱クリスマスツリー実験

## ○農学部の圃場や農場を利用した「収穫体験教室」・「料理体験教室」を実施



農学部の圃場における野菜の収穫



実習室における料理作成

農学部の圃場(三木町の農学部キャンパス内)や農場(さぬき市)を借りて育てた野菜の収穫、それらを用いた料理教室をひらいています。またそれだけでなく、「苦くないピーマンの見分け方」や「さつまいもの糖度を調べる」などの食材に関するクイズや実験を交えながら、参加者の皆様と一緒に食育体験を行っています。

## ○農学部に因んだ特徴的な「商品」を開発

ASUSは、これまで農学部に関した数々の商品を開発してきました(下記)。なお、現在も部内の食品開発チームにより新規商品の開発が行われています。



希少糖入りパウンドケーキ「香農ぱうんど」の開発。会報第58号のプレゼント企画商品



(株)山崎製パンさんとの共同企画により、「釜玉うどん風ランチバック」、希少糖入り苺ジャムを用いた「クリーム大福風ランチバック」および「ふんわりワッフル」を開発。中四国の国立大学では初の試みである



他にも

○農学部で開催されるオープンキャンパスや収穫祭をサポート



高校生への香川大学農学部の案内



ASUS学生による個別相談



農学部オープンキャンパス・収穫祭におけるサポート

○三木町のお祭り「まんで願」への参画、地域の依頼に応じて出張講座等を開講



「まんで願」において、子どもたちと一緒に作るカボチャ型の手提げバッグ



さぬき市の辛立文化センターにおける出張科学体験教室



さらに

○2024年ASUSは「青少年善行者顕彰」と「農学部特別賞」をダブル受賞



池田豊人香川県知事より表彰状授与時の様子  
(令和6年6月5日、香川県社会福祉総合センターにて)



「青少年善行者顕彰」の受賞について小川農学部長へ、顧問の渡邊先生と一緒に報告させて頂いた時の様子(学部長室にて)



「青少年善行者」表彰状



令和5年度農学部学業奨励賞表彰式にて「特別賞」を受賞



## ご挨拶

池戸会会長 岩田 豊志 (学20)

池戸会の会員の皆様、ご壮健でお過ごしのことと存じます。今日は中秋の名月、9月17日です。全国隈なく晴天で素晴らしく美しいお月様が見えているのではないのでしょうか。今、北海道のほぼ中心旭川市近郊の比布町で会報の挨拶文章を書いています。先ほどまで小雨が降っていて、今夜は名月を拝めないのかと思っていました。しかし、急速に雲がなくなり、きれいな月が姿を現しました。この年になって若い頃にはなかった感傷に一人で浸っています。

丁度、50年前になります。大学の4年生の8月に初めて北海道のタマネギ畑を視察に来ました。その後も毎年のように通い続け、来道回数は200回を越えたと思います。毎年のように7月初めから9月末まで香川を離れ、北海道でタマネギの育種に専念してきたので、妻と一緒に中秋の名月を眺めたことがないことに気づきました。3人の子供たちの秋の運動会にも一度も参加したことがなく、淋しい思いをさせたのではないかと考えています。また、子育てを任せてきた家内には感謝しています。

50年前にクラーク博士の銅像を見たはずですが、当時のことを詳しくは思い出せません。Boys, be ambitious「少年よ、大志を抱け」大変有名な言葉です。直訳すれば、「壮年よ、野心を抱け」となりますが、これに続く言葉があり、like this old manともin Christ(God)とも言われています。半月ほど前の北海道新聞のコラムに書かれていましたが、これは別れの際の言葉で9か月前の着任の挨拶では「紳士たれ」と訓示されたそうです。世界中の人々が「紳士、淑女」であれば、紛争のない素晴らしい世界になるであろうと思います。

私自身は、ほとんどの池戸会会員の皆様とはお目にかかったことはありませんが、50年かけて育成したタマネギは皆様と少なからず関わりがあります。夏から翌年の春先まで全国で販売されているのは北海道産タマネギで、ほとんどが私の育成した種子から生産されたものです。スーパー等でタマネギを見かけたら池戸会の会長が育成したタマネギであると頭の片隅に思い起こしていただき、同時に池戸会、香川大学農学部にも思いをはせていただければ幸いです。一人でも多くの方に池戸会に関心を持っていただければ幸いです。

3月16日には林副会長や大学支部の先生方が中心になって九州池戸会が誕生しました。発足総会には小川農学部長にも御出席いただき農学部の現状等を講演していただきました。沖縄を含めた広範囲の支部になりますので、役員の方々は大変でしょうが、身近なところから少しずつ活動を拡大して欲しいと思います。

私も北海道で毎年3か月以上生活していますので、機会があれば北海道在住の会員の方にお会いして池戸会の輪を広げることができればと考えていますが、今は仕事が忙しくて遠方へ出かけることがままなりません。旭川近郊に来ることがあれば、道立上川農業試験場のすぐ隣ですので、是非とも立ち寄っていただきたいと思います。

末尾になりますが、池戸会会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りいたします。



## ご挨拶

香川大学農学部長 小川 雅廣

池戸会会員の皆様、日頃より香川大学農学部の教育研究に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して一年半がたちました。農学部の教育研究活動もコロナ前の通常状態にようやく戻ることができました。コロナ禍を経験し、対面で学生に教えることの大切さを痛感した次第です。コロナのような恐ろしい感染症が今後二度と起こらないことを願ってやみません。

さて、コロナが明け、農学部の活動も以前の活発さを取り戻し、明るいニュースも増えてまいりました。ここでいくつか紹介いたします。

1つ目は、香川大学と東京藝術大学が連携して、文部科学省に申請しておりましたプロジェクトが「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されたことです。J-PEAKSの採択件数はわずか12件で、競争率は6倍の大激戦を勝ち抜きました。本プロジェクトでは、「アートと科学技術による『心の豊かさ』を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開」に香川大学全体で取り組んでいます。農学部の研究者も庵治マリンステーションを拠点として瀬戸内海の海洋課題に精力的に取り組んで成果を上げております。

2つ目は、附属農場がInstagramを始めたことです。農場での実習の様子、各種イベント情報、農場職員の日頃の作業風景などを発信していますので、ぜひご覧ください（[https://www.instagram.com/kadai\\_univ.\\_.farm/](https://www.instagram.com/kadai_univ._.farm/)）。今後は、大学オリジナルワイン「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」（望岡亮介教授が開発したブドウ品種「香大農R-1」を使用）に続く、農場ブランド品の提供を視野に入れております。そのときがきましたらご案内いたしますので、ぜひご利用ください。



3つ目は、8月にタイのチェンマイ市で開催されたシンポジウム（香川大学・チェンマイ大学・台湾国立嘉義大学合同シンポジウム「The 3rd Trilateral Symposium on SDGs」）に、香川大学の学生・教職員合わせて約70名が参加したことです。このうち農学部からは大学院生と学部生20名、教職員4名が参加し、研究発表を行いました。このように大勢の学生・教職員が海外で開催されるシンポジウムに参加するのは、新型コロナウイルスが蔓延して以降では初めてのことです。学生たちは現地でチェンマイ大学や嘉義大学の学生と交流して刺激を受け、英語でのコミュニケーション能力の大切さを痛感したようです。彼らの海外経験を後輩たちに伝えていってほしいと思っております。

最後は、本号の池戸会報の特集記事でも紹介されていますが、農学部の学生ボランティアサークルASUS（エーサス）が、令和6年度「みんなで子どもを育てる県民運動」推進大会で青少年善行者として、池田豊人香川県知事より顕彰されたことです。サークルが11年前に設立されてから、毎年、科学体験教室や収穫体験教室を開講して、地域の小学生の科学や生き物に対する興味・関心を高めてきました。この献身的な行動と、三木町の祭り「獅子たちの里 三木まんて願」に参加して明るい地域づくりに寄与したことが評価されました。学生にとっては、日ごろのボランティア活動が評価されて励みになったことと思います。

以上、最近のニュースを4つ紹介させていただきましたが、他にもたくさんありますので、農学部ホームページ（<https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/>）をご覧ください。少子高齢化が進むなかで、社会は産業ロボットやAIの導入により大きく変わろうとしています。香川大学農学部・農学研究科ではそうした変化にも対応できる人材養成と社会貢献を続けていく所存です。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 母校の近況 NEWS

## 教員の昇任

令和6年4月1日

教授 武藤 幸雄（農業経済学）

令和6年4月1日

教授 諸隈 正裕（作物栽培学）

令和6年4月1日

教授 安井 行雄（進化生態学）

令和6年4月1日

教授 ルーツ ピーター（応用言語学）

## 受賞等

### 福留 光挙 助教

福留光挙助教がチェンマイ（タイ）で開催されたThe 6th Asian-Pacific Conference on Plant-Microbe Symbiosis and Nitrogen Fixation (6th APMNF) においてPoster Presentation Award (2nd Prize) を受賞しました。マメ科植物に共生する根粒菌のシステイニルtRNA合成酵素が、根粒内部のRSS産生および硫黄代謝に重要であることを明らかにしたことが評価されました。



### 廣川 海香音 さん

農学部4年生の廣川海香音さんが、第34回廃棄物資源循環学会研究発表会にて廃棄物資源循環学会中国・四国支部奨励賞を受賞しました。



## 教員の転出

令和6年4月1日

助教 福留 光挙

### 安井 行雄 教授

安井行雄教授の論文が日本生態学会Ecological Research誌のTop Cited Article 2022-2023に選定され、出版元Wiley社から表彰を受けました。予測できない変動環境の中で生物が生き残るためのリスク回避やリスク分散戦略である「進化的ベットヘッジング」の理論を集大成し概念を根本から再構築したもので、生物学の根幹原理に到達したと締めくくられています。



### 渡邊 翔 さん

香川大学学業優秀者学長表彰式が実施され、農学部からは2年生2名、3年生2名、4年生2名、大学院農学研究科からは2年生の渡邊翔さんが表彰されました。渡邊翔さんは、2023年度日本海洋学会秋季大会において、『赤潮指数を用いた瀬戸内海東部・播磨灘におけるヤコウチュウ赤潮の長期変動解析』のタイトルで口頭発表し、若手優秀発表賞を受賞しました。また、令和5年11月に開催された瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典において、大学院生富山瑛弘さん（当時大学院2年）、岩佐真杜さん（当時大学院1年）と三人で、『瀬戸内海の食文化で海を守る～産学官民連携で「Made in SETOUCHI」を世界へ～』のタイトルで提言を行い、この提言に対して令和5年度香川大学学術研究活動表彰も受けました。





## 農学部学業奨励賞

令和5年度農学部学業奨励賞が各学年の成績優秀者に贈られました。今年は4年生7名、3年生7名、2年生8名の計22名が表彰されました。また、特別賞として農学部学生ボランティアサークルASUS、全国国立大学選手権水泳競技大会2位の成績を収めた山田晃司さん、農学部の国際プログラムの活性化に寄与された北村優渚さんが表彰されました。

### 4年生



### 3年生



### 2年生



### 特別賞



## 花木 祐輔 助教

花木祐輔助教が、研究課題名「線維環境下での細胞応答に着目した創薬シーズの探索および合成」で2024年度 日本農芸化学会中四国支部奨励賞を受賞しました。



## 長井 彩音 さん

農学研究科修士課程1年の長井彩音さんが2024年9月に香川県県民ホール・レクザムホールで開催された酵母遺伝学フォーラム第57回研究報告会において、学生発表賞（口頭発表部門）を受賞しました。生体膜を構成する必須な脂質の一つであるスフィンゴ脂質を制御する転写因子Com2が細胞内スフィンゴ脂質レベルに応じて分解制御されることを明らかにし当学会において高い評価を得ました。



## 松沢 智彦 助教

松沢智彦助教が「糸状菌が生産する多糖類分解酵素に関する研究」の研究課題名で令和6年度日本応用糖質科学会奨励賞を受賞しました。



## 安井 行雄 教授

安井行雄教授が連合農学研究科（博士課程）3年の山本悠渡さんとの共著により、日本動物行動学会誌Journal of Ethology Editor's Choice2024（論文賞）を受賞しました。安井教授個人としては、4年連続の受賞となります。雌の多回交尾の進化を説明するbet-hedging仮説が、交尾を受け入れる雌のコンディションを統一状態でも成り立つことを示したもので、技術的なブレイクスルーを成し遂げたことが、高く評価されました。



# 令和6年春の勲章・褒章伝達式 及び令和6年春の勲章伝達式

5月13日（月曜日）、5月14日（火曜日）  
教育、科学技術・学術、文化、スポーツ



## 一井 眞比古 先生

4月29日、令和6年春の叙勲受章者、褒章受章者が発表され、今回の叙勲受章者は政府全体で4,106名、褒章受章者は665名でした。そのうち、文部科学省関係の受章者は、叙勲が734名、褒章が35名でした。

5月13日と14日に令和6年春の勲章・褒章伝達式及び令和6年春の勲章伝達式を執り行いました。（叙勲の勲章伝達は両日にわたって実施）

13日は、叙勲受章者を代表して、瑞宝中綬章を受章された一井眞比古氏（元香川大学長）へ勲記と勲章を、褒章受章者を代表して、紫綬褒章を受章された石橋美枝子氏（俳優：（芸名）原田美枝子）へ章記と褒章をあべ副大臣から伝達しました。

一井氏は、家族や関係者への感謝とともに、資源が十分でない日本にとっては人材こそが最大の財産であり、優れた人材の養成が最も重要だと話され、「私ど

もは本日の榮譽に応えるためにもこれからも微力ながら社会と共に歩みたいと思います。」と述べられました。

また、石橋氏は、家族や出会った方々、巡り合った作品への感謝と、映画で15歳にデビューしてから50年、一番の原動力になったのは好奇心だったと振り返られるとともに、「今日の受章は道の途中と考えてこれからも精進を続けていきたいと思います。」と述べられました。

14日は、受章者を代表して、瑞宝中綬章を受章された林一馬氏（元長崎総合科学大学長・元長崎県文化財保護審議会会長）へ盛山大臣から勲記と勲章を伝達しました。

林氏は、恩師や先輩、家族などへの感謝を述べられるとともに、これまで各人が培ってこられた知恵や技術、技能の次の時代への継承や世界平和への貢献に対する思いなどを述べられました。

# 卒業生へのメッセージ ～退職される教員より～

## フィールド環境コース 多田 邦尚 先生



平成2年4月に母校の本学農学部助手として着任してから35年が過ぎようとしています。

着任以来、頻りに調査船に乗って海に出て、現場にこだわった沿岸海洋学の研究に没頭して来ました。1996年と2001年にはカナダのプリティッシュ・コロンビア州立大学で在外研究員として、本当に多くの事を学びました。共同研究調査、国際学会等で、北米、アジア、ヨーロッパの10か国に海外出張し、貴重な経験をさせて頂きました。特にタイ王国へは何度も訪れ、卒業生との研究交流を続けることが出来ました。

教授昇任後には、恩師岡市友利先生と門谷茂先生の研究室のスタイルを継承し、後輩に当たる一見和彦先生、山口一岩先生と3人で海洋環境学研究室（海研）として、技術職員の浜垣孝司さん、岸本浩二さんと共に教育研究に励みました。一緒に仕事をしてくれた両先生には、素晴らしいチームだったと感謝しています。また、多くの研究室専攻生の皆さんと一緒に過ごしながら自分も成長でき、多くの成果をあげるこ

とができました。研究室同窓生とは卒業後も親交が続くような研究室だったことをうれしく思っています。タイ王国から留学生を5名受け入れ、日本人も含めて7名に博士の学位を取得させることができました。

学部授業では「海洋科学」「無機化学」「環境科学」「分析化学」「機器分析学」など、多くの科目を担当しましたが、学生時代からの不勉強故に、自ら勉強をし直したため、授業準備が本当に大変でした。大学運営では、農学部副学部長、大学評議委員を務め、組織運営の勉強もさせて頂きました。また、本学の海の研究を更に発展させるため、瀬戸内圏研究センターの設立時とその後は、センターの運営に奔走しました。池戸会では、会報の編集長、大学支部長、池戸会執行部として、同窓会のお手伝いもさせて頂き、沢山の同窓生の方に出会うことが出来ました。

学部・大学院修士過程学生時代を含めると41年間、この農学部にお世話になりました。多くの先生方、事務職員の皆さま、本当に長い間、ありがとうございました。香川大学農学部の益々の発展をお祈りしております。



2023年 研究室集合写真



カラヌスⅢ 船上にて

## アグリサイエンスコース 望岡 亮介 先生

私が大学教員になったのは、元号が昭和から平成に変わった1989年4月のことでした。その10年後、1999年4月に縁あって香川大学に転勤し、25年間お世話になりました。今でこそブドウやワインの研究者のように扱われていますが、ワインブドウの“香大農R-1”を育成したのはたまたまでしたし、ましてやそのブドウで大学ブランド・ワインが造

られ、世にそこそこ知られるようになるとは思ってもありませんでした。すべてが巡り合わせの妙であると感じています。ただ、そのような場面に遭遇したときに何かに気が付く感性が重要です。卒業される皆様も、今後そのようなことを経験することもあるでしょう。その時に気が付くようにいろいろなことに興味を持って接してください。



ワインを楽しむ会2017

## 追悼 岡市 友利 先生



本学名誉教授 元香川大学長 元農学部長 岡市友利先生が、令和6年10月12日95歳で逝去されました。

先生は、東京大学農学部水産学科をご卒業、同大学院生物系研究科に進学後、東京大学農学部助手となられ、農学博士（東京大学）の学位を取得されました。昭和39年に香川大学農学部助教として着任され、昭和53年には教授に就任されました。

先生は、赤潮の発生状況に関する研究、赤潮プランクトン増殖における浅海海水の生理的性質や人為汚染の影響、赤潮鞭毛藻類の毒性など国内外の赤潮に関する生物環境学的研究を展開されました。また、同時に内湾域における物質循環の研究などの海域の環境保全に関する研究を実施され、多大な研究業績をあげられました。昭和62年11月には、高松で世界初の国際赤潮シンポジウムを開催されました。

教育と研究の激務を果たされながらも、学内にあっては、昭和58年には農学部長に、平成3年には香川大学長に就任され、全国に先駆けて連合大学院博士課程の創設や農学部改組、国際交流基金の設立、全学部改組による工学部の新設などの

大学の牽引者としてもその手腕を發揮されました。そのかたわら、社会活動にも尽力され、平成4年には瀬戸内海環境保全審議会会長ならびに瀬戸内海研究会議長として瀬戸内海に係る重大な事項などの調査審議に力を注がれました。

以上のような数々のご業績により、先生は日本水産学会奨励賞、日本海洋学会賞、四国新聞文化賞、日本農学賞、読売農学賞、山陽新聞賞、など多くの学術賞の受賞をはじめ、環境保全功労章表彰（環境庁長官）、平成6年には紫綬褒章、平成15年には瑞宝重光章を受章されました。

先生は、気さくで親しみやすい方で、学生の面倒見もよく、骨身を惜しまず、どこにでも出向かれ、多くの分野の人々から敬愛をうけておられました。本当に偉大な「大学人」であった岡市先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

多田 邦尚（農学部教授 副学部長 学28）



## 追悼 桑原 正章 先生



本学元教授 桑原正章先生におかれましては、令和5年12月3日に逝去されました（享年85歳）。

先生は、京都大学農学部をご卒業後、同大学院に進学され、同大学農学部助手を経て、昭和43年4月に香川大学農学部食品学科に講師として着任されました。その後、昭和45年に助教授、昭和59年に教授に昇任され、平成2年10月に京都大学木材研究所（現 生存圏研究所）に転出されました。平成7年4月から平成13年3月まで同研究所所長を務められています。また、平成13年11月に秋田県立大学木材高度加工研究所教授に転出され、平成19年3月に退職されました。

先生は、香川大学農学部ご在籍の約22年間に多くの学部学生や大学院生の教育と研究に尽力されました。先生の薫陶を受けた多くの卒業生・院修了生が大学、公的・民間の研究機関をはじめ幅広い分野で活躍しております。また、学部改組や大学・学部運営にも大きく貢献されました。先生は主として、木材中のリグニンを分解する白色腐朽菌（きのこ）を対象とする生化学的・分子生物学的研究を基礎と応用の両面から展開され、香川大・京都大・秋田県大時代を通じて、常に当該研究分野の第一人者としてご活躍されました。学会活動でも、日本きのこ学会会長など、多くの重責を担われました。

筆者は、昭和57年1月に微生物利用学研究室（当時）の助手に採用して頂き、約8年間（うち1年間は桑原先生が米国に留学されましたので実質7年間）、部下として先生のご指導を受けることができました。先生の第一印象は「カッコいい先生だな」でありました。先生をご存知の方なら、きっとご賛同頂けることでしょう。先生は研究や学生指導に対しては、とても真摯で厳しい態度で臨まれました。早朝から自ら研究に勤しまれ、また、指導学生とも真正面から対峙され、時には厳しく叱責されました。しかし、それでもなお、学生から誰よりも信頼され慕われる先生でした。学生ばかりでなく、学内外の教員をはじめ、周りの多くの方々からの絶大な信頼を寄せられた先生でした。

研究室では研究一辺倒ではなく、多くの研究室行事も大切

にされました。頻繁に行っていた研究室での鍋コンパ（当時は独法化前で規制が緩かった）、ご自宅にお招き頂いての忘年会、毎年の研究室旅行、初夏の潮干狩りとその夜のアサリの酒蒸しコンパ、他研究室とのソフトボール（ウイークデイの時は実験時間に食い込まない

ように午前7時プレイボールという、桑原研ならではの！）、などなど、楽しかった思い出は尽きません。私事になりますが、先生が京大に転出されるのが決まった時、私は悲しくて「行かれてしまっは困る」と駄々を捏ねたものですが、先生は「自分も同じ経験をしたから君の気持ちはよく分かる。今は困ると思っいてても、上がいなくなると、そのうち気持ちはスカッとするぞ」というお言葉を残して去られました。私がその後スカッとしたかどうかはさておいて、もっと長く先生のご指導を受けることができているならば、私とて、もう少しましな教員・研究者になれたであろうな、と残念な気持ちは今も変わりません。

また、話は飛びますが、桑原先生は、香川大学とのご縁を大切に考えて下さって、秋田県大をご退職後の平成19年4月から平成28年3月まで香川産業支援財団の産官学連携アドバイザーとして、香川大学・香川県の希少糖研究・糖質バイオ研究にご指導・ご支援を賜りましたことを付記させていただきます。その頃の先生に香川で何度かお目にかかることができましたが、とても柔和な感じになっておられたことに一抹の寂しさは禁じ得ませんでした。

またお会いしてお話できる機会があるものと思っておりますのに、残念でたまりません。桑原先生との思い出は尽きず、とてもこの紙面で語り尽くすことはできません。桑原先生の長年にわたるご厚情に感謝致しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

麻田 恭彦（香川大学名誉教授）



香川大学農学部ロゴ入り

# 「スマホスタンド」を 抽選で5名様にプレゼント!



香川大学農学部開学120周年記念式典でお配りさせていただいた記念品である記念コースターと同じ柄である「麻の葉」の模様で作ったスマホスタンドです。麻は成長がとても速く、まっすぐに成長し、生命力も強いので、『成長』、『無病息災』、『長生き』など、古くは鎌倉時代より、日本の伝統的な文様として親しまれ、縁起の良いものとされています。

**応募資格** 令和6年度の会費を納められた池戸会正会員（80歳以上で会費納入を免除された方を含む）および入会金を納められた池戸会準会員。

会報に同封のはがきに**プレゼント券**（このページ下部）を貼付して、**郵便番号、現住所、氏名（準会員は学生および保護者の両名）、電話番号、卒業年度（在学年次）、学科等、近況通信等**を書いて下記まで郵送して下さい。ご記入いただいた近況は池戸会報に掲載する場合があります。

**送り先** 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局  
〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部内

**応募締切** **2025年3月14日 金曜日（必着）**  
当選者発表池戸会報67号（池戸会ホームページでも発表します。）

**問い合わせ先** 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局 電話：087-898-8615  
E-mail：ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

## 『記念コースター、トートバック、 希少糖秘話ボックスセットなど』当選者のお知らせ

池戸会報第65号でご案内しておりました池戸会特別企画「記念コースター、トートバック、希少糖秘話ボックスセットなど」に多数のご応募いただきましてありがとうございました。厳正なる抽選の結果、10名の当選者を発表いたします。

長尾 稔 様	船本三千夫 様	則井 孝文 様
足立 明久 様	中野 来 様	佐藤 義徳 様
彦坂 昌敏 様	瀧本 兼司 様	川崎 稔弥 様
奥村 花凜 様	(順不同)	



食品の物性やおいしさを決定づける要因を探求する



いしい とうや

石井 統也

Touya Ishii

**編集委員：**石井先生のご経歴と現在の研究に至った経緯をお聞かせ下さい。

**石井先生：**昔から食べることが好きで、幼少期には両親や祖父母に「食べ物を食べているときだけは静かだな」と言われていたようです。食に関する仕事に就きたいとの思いで農学部への進学を決め、京都大学農学部の品質評価学分野で、当時の教授であった松村康生先生の下で植物素材の乳化機能に関する研究に携わりました。その後、2021年7月に香川大学農学部にて助教として着任し、乳化物だけでなく麺類などの様々な食品を対象を広げて、おいしさを左右する要因の解明や、保存時の品質変化の抑制を目指した研究を進めています。

**編集委員：**乳化物の研究についての現状と今後についてお聞かせください。

**石井先生：**乳化物とは、ドレッシングやクリームなどの水中に細かな油滴が分散したものです。水と油だけを混ぜるのでは短時間で二層に分離してしまいますので、水と油を結びつける作用を持った素材（タンパク質など）が用いられます。ここ10年ほどは、植物タンパク質などの乳化機能を高める基礎研究が盛んで、産業利用に向けた検討も進んでいます。今後は、乳化物とヒトとの接点、つまりおいしさや消化吸収性などがさらに関心を集めそうです。どのような構造の乳化食品を作ればおいしさや消化吸収性を制御でき、そこには、どのような分子的・構造的なメカニズムがあるのか。まだまだ様々な検討が必要なテーマです。

**編集委員：**香川大学に着任してから3年経過したところですね。研究者としては数年の経験をお持ちですが、教育者としてのスタンスをお伺いできればと思います。

**石井先生：**学問をするにも社会に出て仕事をするにもある程度の知識が必要ですが、受け身の姿勢で得られるものには限りがあります。結局、自ら様々なことを調べて吸収しようとする主体性や積極性が大切だなと感じています。学生の知的好奇心をくすぐり、自ら何かを調べる習慣を身に付けてもらえるような講義や研究指導を目指しています。

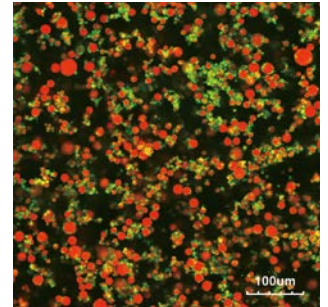
**編集委員：**国際交流についてはどのようにお考えでしょうか。

**石井先生：**昨年度と今年度はベトナムへの短期留学に同行し、今年度はタイからの短期留学生も受け入れました。また、農学部にて在籍中の留学生の皆さんは、いつも気さくに声をか

けてくれます。学部生の頃から海外の方と気軽に関わることのできる環境はとても貴重なもので、学生の頃から英語がコンプレックスな私には羨ましい限りです。在学生の皆さんにはこの機会を最大限活用して、ぜひ語学力を伸ばしてほしいです。



乳化操作（マヨネーズの作製）



乳化物の微細構造観察像



ベトナム短期留学プログラムの参加者と



タイからの短期留学生と研究室にて

## Profile

### 石井 統也 (いしい とうや)

助教、博士（農学）（京都大学）

専門分野：食品科学、界面・コロイド科学、レオロジー

### 卒業生の皆さんへのメッセージ

私の研究室では、2021年3月に退職された合谷祥一先生（香川大学名誉教授）から装置などを一部引き継いで研究に活用させて頂いています。多くの方からの支えに感謝し、研究教育を通して社会に貢献できるように引き続き尽力いたします。

# 同窓生訪問

香川県農業経営高等学校・教諭

## 滝 彰 さん(学 42・修 30 農業生産)

今回の同窓生訪問は、香川県農業経営高等学校（以下、農業経営高校）で教諭をされている滝彰先生にお話を伺いました。新潟県ご出身で中学生から香川県にお住いの滝先生は、平成9年に農学研究科を修了された後、飯山高校、笠田高校を経て、現在、農業経営高校でご活躍されています。農業経営高校では、1年次（農業科）、2年次（4学科）、3年次に専門性の高い12専攻部門へとステップアップしていきますが、滝先生は動物科学科・養豚専攻を主として教鞭をとられています。この度、日ごろの取り組みが評価され、日本農業教育学会の「栽培・飼育教材開発コンクール」において、「農業技術・農業人材育成部門」の最優秀賞を受賞されました。第一次産業である畜産と、教諭として生徒を指導する二足の草鞋を履きながら、大きな成果を上げてこられた経緯や現在の取り組みについてお話を伺ってきました。



**編集委員：**まず、学生時代から教員になるまでのお話を聞かせていただけますか。

**滝先生：**学生時代は農業生産学科の田中道男先生の研究室でお世話になり、卒論ではオンシジュームという洋蘭の組織培養をやっていました。修士課程もたくさん再生できた小さな植物体を使って、早く花を咲かせるにはどうしたらいいかを卒論研究に続いて取り組んでいました。植物ホルモンの影響に関する実験で、今の職場の仕事とはまったく違いますね。その当時から、将来、農業に携わりたいという想いはあったのですが、農業をやりたかったものの、親はサラリーマンで下地もないわけです。また父親の仕事の関係で転勤族であったため、子供の頃は全国を転々としました。中学生でやっと高松で落ち着いたので、それからは地元に残りたいという気持ちもあった。そのような中で、農業高校へ教育実習に行くのですが、生徒を指導しながらもやっていることは農業そのもの。地元で教員の仕事をしながら農業も出来るという道がここで開けました。

**編集委員：**実際に教諭になられていかがでしたか？

**滝先生：**最初の赴任校である飯山高校では植物バイオの授業や実習もやっていたのですが、笠田高校で畜産（養豚）を手掛けることになりました。最初はもちろん戸惑いましたよ。小さな植物体から大きな動物ですからね。豚の発情も見分けられないし、分娩もなかなか思うようにならない。5年くらいは本当に苦労しました。でも私は基本的に動物好きなので、面白かったですよ。農業経営高校に赴任して今

年で8年になります。理科の免許を持っていますが、いわゆる座学の授業は週に2時間程度で、あとはほぼ実習になります。特に3年生は授業の大半が実習です。

**編集委員：**今回、滝先生は日本農業教育学会「栽培・飼育教材開発コンクール」で最優秀賞を受賞されました。どのような取り組みが評価されたのでしょうか？

**滝先生：**「実践的な養豚を学ぶ」というもので、その中で生徒が内面的にも成長していく過程が認められたのだと思います。農業高校で手掛ける畜産は一般的に規模が小さいので、始めから終わりまでの流れを教えるのが難しい。時期を選ばず生徒が学べるようにするには、色々な成育ステージの豚がいつも飼育ゲージにいる必要があります。豚は種付けから出荷までに10ヵ月くらいかかりますが、常に色々な成育ステージがいる状態にしよう。

**編集委員：**今日、妊娠中の豚、小さな子豚や出荷前の肉豚も見せていただきました。このシステムは滝先生が着任された時にはもう出来ていたのですか？

**滝先生：**そうするための施設ではあったのですが、実際には上手く回っていませんでした。そこで、まずはこの豚がいつここに入って、どの成育ステージなのか、などを徹底的に記録して飼育ゲージに表示した。この流れが出来てから生徒が主体的に関わっていくことができるようになりました。それと豚肉にはトレーサビリティが無いんですよ。屠畜数が圧倒的に多いからなのですが、そこで業者の方にちょっと無理を言って、農業経営高校のシー





親豚



若豚

ルを貼って本校のブランドとして販売してもらっています。店頭販売の際には生徒が出て行くこともあります。育てるところから販売までですね。3年生になると屠畜解体場にも連れていきますよ。前日に出荷しておいて、その翌日に屠畜解体場へ。自分たちが育てた豚が屠畜解体されるまでの流れを一通り見る。

**編集委員：** そうなんですか！でも、複雑な感情になる生徒さんもいますよね？

**滝先生：** それがそんなことはないんです。元々動物好きの子が多いし、自分たちが育てたという意識もありますから、動物って「可愛い」だけじゃ済まされないよね、という気持ちがすでに染みついているんです。むしろ自分たちが育てた豚がどう評価されるか？の方が生徒たちの関心になっています。普通科の高校生がいきなり現場を見れば、おそらく卒倒する子もいると思います。これは養鶏部門も同じで、自分たちが育てた鶏を解体するところまでやります。これまでに「私にはできない…」といった生徒はいません。何のために家畜を育

てているのか、ということを実質的に理解しているのでしょうか。

そうそう、課題研究の授業の中で毎年色々な実験をやっていますが、豚のストレスを軽減してやると美味しくなるんですよ。狭いところでギュウギュウに飼うよりも広いところが良いし、これは生徒の案だったんですが、毎日、豚をなでて可愛がってやると旨味成分の値が明らかに高くなるんです。逆に実験として狭いところに押し込めて棒で突きまわしてストレスをかけてみると、味が落ちるんです。今年はゲージの中におもちゃを置いて豚が遊べるようにしています。

**編集委員：** たいへん面白いお話をありがとうございました。最後に現役学生や同窓生に向けて一言いただけますか。

**滝先生：** 大学時代に勉強したことが将来そのまま役に立つか、立たないかは別として、一つの課題（研究）に没頭した経験は何らかの形で必ず報われると思います。今、目の前にある課題（研究）に一生懸命取り組んで、学生生活を過ごしてください。



実習中の生徒さんと

# 池戸会 本部報告

## 令和6年度 池戸会本部役員

会 長	岩田 豊志 (学20・園芸)		森 宏樹 (学23・農学)	三木 仲多度
副会長	岡崎勝一郎 (学19・食品)		宮下 武則 (学24・農学)	高松中央
	田辺 和司 (学20・農学)		黒川 義夫 (学17・農工)	高松
	林 宏年 (学22・農工)		木村 義一 (学19・農学)	大川
顧問	農学部長 小川 雅廣		千田 良信 (学19・園芸)	高松南部
	前会長 杉本 利行 (学16・農化)		川東 敬幸 (学22・農工)	高松中央
	前々会長 五井 正憲 (学8・園芸)		松原 智子 (学24・食品)	県庁
評議員 (下記一覽表)			柴野ゆりか (学32・農学)	県庁
監査員	末澤 克彦 (学25・園芸)		三野 真弓 (学34・園芸)	総務
	窪田 健康 (学29・農学)		多田 邦尚 (学28・農化)	総務
理事	古市 崇雄 (学34・農学)	香川県庁	木村 義雄 (学31・食品)	総務
	今岡 秀之 (学32・農芸)	高松市役所	奥田 延幸 (学34・園芸)	会報
	川崎 陽通 (学24・農工)	徳島	一見 和彦 (学37・生物資源)	会計
	中杉 光廣 (学21・園芸)	岡山	渡邊 彰 (学38・生物資源)	学内活動
			杉山 康憲 (学50・生命機能)	
			幹事 吉原 明秀 (学49・生物資源)	
			松沢 智彦 (学53・生命機能)	

## 令和6年度 各支部長及び支部選出本部評議員一覽表

支部名	支部長	評議員	評議員	評議員
大 学	木村 義雄(学31)	多田 邦尚(学28)	奥田 延幸(学34)	
県 庁	岡崎 力(学33)	古市 崇雄(学34)	松平 和也(学35)	
市 役 所	今岡 秀之(学32)	壺井多川士(学33)		
三 木	森 宏樹(学23)	本田 正聡(学27)	川波 清司(学29)	
大 川	千田 良信(学19)	平松 義孝(学23)	松崎 朝浩(学28)	
高 松 東 部	林 宏年(学22)	黒川 幸重(学25)	谷澤 敬久(学32)	
高 松 中 央		(再生中)		
高 松	木村 義一(学19)	山本 洋一(学19)	田辺 和司(学20)	
高 松 西 部	中西 健仁(学19)	藤村 達典(学32)		
龍 雲	白坂 正明(学1)	石塚 畚(学1)	溝渕 昭七(学1)	
高 松 南 部	川東 敬幸(学22)	高尾 武司(学19)	奈良 稔(学22)	
小 豆	井藤 龍平(学20)	前田 満照(学21)		
香 川	土居 譲治(学22)	青木 敏(学20)		
綾 川	西谷 寛昭(学19)	日野 潤(学22)		
坂 出	横井 清隆(学7)	石井 秀明(修6)	玉井 義和(学12)	
仲 多 度	宮下 武則(学24)	北山 信夫(学19)	各務 好行(学20)	
西 讃	篠原 重寿(学21)	今川 雅之(学24)	近藤 博樹(学34)	
愛 媛		(休止中)		
高 知	中澤 祥子(学54)	和田 達夫(学15)		
徳 島	川崎 陽通(学24)	山出 省吾(学19)	安富 範雄(学19)	中西 健(学36)
岡 山	尾野田瑞穂(学26)	羽原 政明(学17)	野村 正己(学18)	猶原 順(学27)
広 島	中山 長秀(学22)	市岡 敏生(学18)	高山 信明(学22)	
島 根	桑原 克夫(学22)	水野 正美(学23)		
山 口	松原 賢治(学17)	長山 幸範(学28)	平田 良美(学34)	
兵 庫	葛西 利延(学8)	岩崎 俊一(学15)	武田 和義(学17)	田村 哲哉(学34)
大 阪	柳川 和彦(学26)	大井 寛(学11)	土居 修(学18)	森川 尚志(学26)
京 滋	米川 順一(学27)	平川 潤(学30)	清水 文雄(学36)	
奈 良	那波 和志(学27)	山本 英雄(学14)		
東 京	祖父江 晋(学22)	伊藤 研治(学22)	井藤 智臣(学23)	
三 重		高井 章(学8)		
愛 知	鈴木 和昭(学19)	高橋 順一(学18)	小田 利一(学26)	
九 州	川西 求一(学22)	岩崎信一郎(学21)	三浦 章敬(学22)	川邊 邦彦(学22)

## 令和5年度事業報告

- 評議員会、総会の開催 令和5年6月18日(日)  
農学部BW106
- 名簿配布 要望のあった方で身元が明らかな方
- 支部活動の援助 令和5年度卒業・修了生の名簿の送付(希望された支部)
- 支部総会の助成 開催支部への祝い金の贈呈、本部役員、教員の出席(通年)
- 同級会及び個人会員へのサービス、会員動向調査(通年)
- 池戸会報第65号編集発行、8,980部、全員配布(12月)
- 学内活動
  - 新入生への祝い品・会報の贈呈(4月・9月)
  - 新入生からの入会金の徴収(4月~12月)
  - 令和5年度卒業生・修了生に記念品(学位記ホルダー等)の贈呈(9月・3月)
  - 第34回学内ソフトボール大会の主催(5チーム参加:10月)
  - 農学部収穫祭への協力(11月)
  - 研究室分属した学生にBikitaIDとパスワードを配布(2月)
- 池戸会活性化対策事業
- 香川大学農学部開学120周年記念事業
- 令和5年度支部総会開催状況

支部名	開催日	開催場所	本部出席者
京滋支部	7月23日	京都 KKR京都くに荘	奥田教員
西讃支部	8月20日	香川 第一会館	多田教員
大川支部	9月16日	香川 大川オアシス	木村教員
岡山支部	10月14日	岡山 RYOUTEI	林副会長・松沢教員
小豆支部	10月28日	香川 オリビアン小豆島	田淵教員
徳島支部	10月28日	徳島 ザ・グランドパレス	吉原教員
広島支部	11月11日	広島 ひろしま国際ホテル	渡邊教員
仲多度支部	11月11日	香川 旧善通寺偕行社	岩田会長
坂出支部	11月12日	香川 坂出グランドホテル	岩田会長
大阪支部	11月19日	大阪 KKRホテル大阪	林副会長・多田教員
愛知支部	11月25日	愛知 アイリス愛知	渡邊教員
香川支部	11月26日	香川 和幸	田辺副会長
三木支部	11月26日	香川 和dinningまるこう	一見教員
高松南部	12月17日	香川 トレスタ白山	杉山教員
みずほ会	2月22日	香川 三河屋	多田教員
九州支部	3月16日	福岡 TKPカンファレンス博多	岩田会長・林副会長・小川学部長



## 令和5年度収支決算書(一般会計)

(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

収入額	7,269,237円
支出額	5,647,931円
差引残額	1,621,306円

### 収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	1,509,201	1,509,201	0
会費	1,900,000	1,978,000	78,000
入会金	2,200,000	2,260,000	60,000
寄付金	500,000	1,516,950	1,016,950
利息	0	6	6
雑収入	0	5,080	5,080
合計	6,109,201	7,269,237	1,160,036

### 支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
人件費	1,200,000	1,150,000	△50,000
旅費	200,000	383,300	183,300
事務費	200,000	102,863	△97,137
通信費	200,000	317,389	117,389
事務室料	400,000	228,074	△171,926
会議費	150,000	119,160	△30,840
会報費	2,300,000	2,375,428	75,428
支部総会助成費	100,000	180,000	80,000
支部援助費	20,000	162,538	142,538
同窓活動費	30,000	56,827	26,827
学内活動費	300,000	386,031	86,031
振替手数料	230,000	181,321	△48,679
雑費	200,000	5,000	△195,000
予備費	579,201	0	△579,201
積立金	0	0	0
合計	6,109,201	5,647,931	△461,270

## 令和5年度収支決算書(特別会計)

(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

収入額	1,118,191円
支出額	9,110円
差引残額	1,109,081円

### 収入の部

費目	決算額(円)
繰越金	1,066,186
名簿収入	52,000
利息	5
合計	1,118,191

### 支出の部

費目	決算額(円)
名簿作成費	0
送料	9,110
雑費	0
合計	9,110

## 会費地域別納入状況

令和6年3月31日現在

地域	県名	3年度(人)	4年度(人)	5年度(人)
四国	香川	568,000円 (248)	458,000円 (206)	494,000円 (226)
	徳島	70,000円 (33)	76,000円 (32)	166,000円 (45)
	高知	24,000円 (9)	16,000円 (9)	14,000円 (7)
中国	愛媛	40,000円 (20)	56,000円 (24)	26,000円 (13)
	岡山	208,000円 (93)	186,000円 (89)	196,000円 (94)
	広島	70,000円 (33)	50,000円 (24)	56,000円 (25)
九州	鳥取	12,000円 (6)	12,000円 (6)	10,000円 (4)
	島根	26,000円 (12)	16,000円 (8)	24,000円 (12)
	山口	24,000円 (12)	34,000円 (14)	60,000円 (18)
	福岡	44,000円 (13)	26,000円 (13)	44,000円 (18)
	佐賀	4,000円 (2)		6,000円 (2)
	長崎	14,000円 (7)	16,000円 (8)	32,000円 (12)
	熊本	6,000円 (3)	6,000円 (3)	8,000円 (4)
	大分	28,000円 (14)	26,000円 (13)	22,000円 (11)
	宮崎	8,000円 (4)		16,000円 (8)
	鹿児島	22,000円 (9)	12,000円 (6)	12,000円 (6)
沖縄	沖縄	10,000円 (4)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	兵庫	142,000円 (69)	174,000円 (77)	156,000円 (65)
	大阪	150,000円 (67)	122,000円 (55)	158,000円 (60)
	京都	24,000円 (11)	36,000円 (17)	42,000円 (19)
	滋賀	28,000円 (14)	26,000円 (13)	24,000円 (12)
	奈良	20,000円 (10)	22,000円 (11)	26,000円 (13)
	和歌山	24,000円 (12)	20,000円 (9)	28,000円 (14)
東海	三重	12,000円 (6)	10,000円 (5)	16,000円 (4)
	愛知	50,000円 (24)	60,000円 (30)	82,000円 (35)
	岐阜	12,000円 (6)	6,000円 (3)	10,000円 (5)
	静岡	34,000円 (12)	24,000円 (12)	38,000円 (16)
関東	東京	46,000円 (21)	62,000円 (26)	38,000円 (19)
	神奈川	38,000円 (19)	48,000円 (22)	44,000円 (18)
	埼玉	36,000円 (18)	32,000円 (16)	38,000円 (19)
	栃木	8,000円 (4)	2,000円 (1)	4,000円 (2)
	群馬	2,000円 (1)	2,000円 (1)	4,000円 (2)
	茨城	8,000円 (4)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	千葉	48,000円 (18)	38,000円 (17)	26,000円 (13)
	長野	2,000円 (1)	2,000円 (1)	12,000円 (3)
信越	山梨	6,000円 (3)	6,000円 (3)	2,000円 (1)
	富山	2,000円 (1)		
	新潟	8,000円 (4)	2,000円 (1)	6,000円 (3)
北陸	石川	4,000円 (2)		2,000円 (1)
	福井	6,000円 (3)	8,000円 (4)	8,000円 (4)
東北	福島	2,000円 (1)	22,000円 (2)	2,000円 (1)
	山形			2,000円 (1)
	宮城	2,000円 (1)	4,000円 (2)	2,000円 (1)
	秋田			
	岩手			
	青森	4,000円 (2)	2,000円 (1)	
北海道	北海道	8,000円 (3)	12,000円 (5)	10,000円 (5)
合計		1,904,000円 (859)	1,744,000円 (795)	1,978,000円 (847)
	前年比	-286,000円 (-58)	-160,000円 (-64)	234,000円 (+52)
	うち個人振込			
	支部経由			

## 令和6年度事業計画

- 評議員会、総会の開催（令和6年6月16日 農学部BW106）
  - 支部活動、同期会等開催の支援
    - 支部総会等へ本部役員及び教員の派遣
    - 名簿情報等の提供
    - グループでの学内見学希望者のお世話
    - その他
  - 同窓会活動活性化対策
    - 県外支部の再生・新設（卒業生が100名を超える県から）
    - 県内支部の活性化及び再編  
香川県内支部の交流会開催等に向けた検討
    - 支部への収穫祭参加の依頼
    - ホームページ（Bikita）の利用促進  
会員相互の活発な情報発信への活用促進。
    - 入会金納入率の向上  
新入学者の保護者への啓発活動の推進  
保護者への会報配布（4年間）
  - その他  
アフターコロナ社会に向けて新しい池戸会活動に取り組む。
  - 学内活動
    - 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
    - 新入生からの入会金の徴収（4月～10月）
    - 第35回学内ソフトボール大会の主催（10月）
    - 農学部収穫祭への協力
    - 令和6年度卒業生・修了生に学位記ホルダーの贈呈（9月・3月）
    - その他
- ※上記行事計画等につきましては、感染症等の今後の状況により、可能な範囲で実施することとします。

5. 池戸会報第66号の編集発行 全員配布

## 令和6年度収支予算書

予算額 6,221,306 円

### 収入の部

費目	5年度予算額(円)	6年度予算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	1,509,201	1,621,306	112,105
会費	1,900,000	1,900,000	0
入会金	2,200,000	2,200,000	0
寄付金	500,000	500,000	0
利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
合計	6,109,201	6,221,306	112,105

### 支出の部

費目	5年度予算額(円)	6年度予算額(円)	差引増減(円)
人件費	1,200,000	1,200,000	0
旅費	200,000	400,000	200,000
事務費	200,000	200,000	0
通信費	200,000	200,000	0
事務室使用料	400,000	400,000	0
会議費	150,000	150,000	0
会報費	2,300,000	2,500,000	200,000
支部総会助成費	100,000	100,000	0
支部援助費	20,000	20,000	0
同窓活動費	30,000	30,000	0
学内活動費	300,000	300,000	0
振込手数料	230,000	200,000	△30,000
雑費	200,000	200,000	0
予備費	579,201	321,306	△257,895
積立金	0	0	0
合計	6,109,201	6,221,306	112,105

## 住所不明者一覧

本部事務局では、会員名簿台帳の作成・会報の配布・各支部への会員所在通知などのため、全会員の住所等を正確に保持するのに苦勞しています。現在、下記の方々の所在が不明です。ご存知の方はご面倒ですが本部までご一報下さい。本部の連絡先は、裏表紙に記載してあります。

### 令和5年度住所不明者一覧

住所不明者一覧のリストがここに表示されるべきです。
---------------------------

## 会費納入のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙またはコンビニ・郵便局兼用振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分をまとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。なお、80歳以上の方は無料です。令和5年度会費納入者名簿を本会報に同封していますのでご参照ください。

## 来年度総会のお知らせ

令和7年6月15日(日)に農学部にて開催予定です。総会ですので、皆様ご出席下さい。出席される方は事務局までご連絡下さい。

## 逝去者一覧

桑原 正章	旧職員	令和5年12月	大学支部より	川合 貴雄	学6	令和5年11月11日	橋本修二様 (学24)より
高木 由巳	26		香川支部より	木下 隆	学6	令和6年7月16日	返信はがきより
松尾 俊隆	36		綾川支部より	齋藤 博	学7		返信はがきより
玉川 湛	37		綾川支部より	林 幸男	学7	令和5年1月10日	返信はがきより
佐藤 進	38	令和6年2月21日	白坂正明様 (学1)より	上田 恒祐	学7	令和5年8月10日	返信はがきより
松本 政則	40		綾川支部より	寺岡 慶子	学7	令和5年12月29日	返信はがきより
十河健太郎	43・45		綾川支部より	福原 俊夫	学9	令和4年11月24日	ご家族よりTEL
向井 智	43・45	令和5年10月8日	ご家族よりTEL	工藤 敏一	学10	平成26年7月29日	返信はがきより
小河 勝	46・ 中1	令和4年2月28日	返信はがきより	大前 雄彦	学10	令和5年6月18日	返信はがきより
筒井 則雄	46・ 中1	令和5年7月	返信はがきより	株屋根義照	学10	令和4年9月24日	返信はがきより
渡辺 昭清	41・ 農専1		綾川支部より	常木 敏雄	学11	令和5年10月31日	返信はがきより
大西 利男	農専1	令和4年7月30日	ご家族よりTEL	伊澤 賢二	学12	令和5年12月21日	返信はがきより
松原 卓治	42・ 農専2	令和5年8月15日	ご家族よりTEL	橋口 光義	学14	令和5年6月	返信はがきより
入倉 勤	農大1		返信はがきより	清家 利文	学16・ 修5	令和5年3月10日	返信はがきより
浮田 春雄	農大2	令和4年3月	返信はがきより	武川 純一	学16	令和6年10月9日	新聞より
宇山 安治	農大2	令和5年8月23日	返信はがきより	西尾 幸郎	学17・ 修5	令和6年9月3日	多田邦尚様 (学28・修16)より
川原 幸夫	46・ 中1・ 農大2	令和5年1月12日	返信はがきより	高橋 二郎	学17	令和5年3月	返信はがきより
真鍋 輝敏	農大2		返信はがきより	松尾 憲一	学17	令和5年6月	ご家族よりTEL
横井 清	学1	令和5年5月28日	返信はがきより	藤井 行弘	学19	平成28年8月12日	返信はがきより
小野 智明	学2	令和6年2月15日	京滋支部より	吉田 勤	学19	令和5年10月	返信はがきより
河野 隆幸	旧職員・ 学2	令和5年9月23日	返信はがきより	溝瀨 和幸	学20	令和4年12月29日	返信はがきより
谷原 孝治	学2	令和5年1月	返信はがきより	片岡 憲和	学20		返信はがきより
川崎 力	学3	令和5年8月	ご家族よりTEL	大田尾龍郎	学22	令和6年8月31日	返信はがきより
中西 和雄	学4	令和5年10月	返信はがきより	村瀬 正	学25・ 修13	令和6年5月6日	返信はがきより
藤沢 昇	学4	平成30年5月	三木支部より	正岡 俊二	学26	令和5年10月17日	返信はがきより
末澤 清節	学4	令和3年1月3日	返信はがきより	団 浩史	学29	令和6年1月14日	ご家族よりTEL
末包 正	学5	令和5年8月	返信はがきより	村田 正之	学44	令和4年4月10日	返信はがきより

# 卒業生のひろば

支部、同窓会、会員短信

## ■綾川池戸会（綾川支部）だより

会長 西谷 寛昭 (学19)  
監事・広報 津村 英男 (学31)

綾川池戸会（綾川支部：平成30年設立、会員数54名）は、コロナ禍で活動を休止しておりましたが、5年ぶりに令和6年7月21日（日）に綾川町陶「綾瀬」で、池戸会から本部理事木村義雄教授をご来賓としてお迎えし、会員12名が集い、総会及び懇親会を開催しました。

総会では、木村先生から池戸会の支部新設・再結成など本部現況や大学の近況報告、昨年7月に実施されました香川大学農学部開学120周年記念式典等のお話をいただきました。その後、議事に入り、提案した議案のとおり承認され、新しく西谷会長（学19）・日野副会長（学22）が選任されて、総会は無事終了することができました。

引き続き、懇親会を開催し、自己紹介や近況報告などを行い、柿農家が4人もいること、地域のお世話やボランティア活動の話、年金問題など幅広い話題が飛び交い、会員相互の懇親を深めました。今回の総会出席者は、昭和39年卒業（学9回）から平成7年卒業（学40回）まで、農学、園芸、農芸化学、農業工学、生物資源の各学科からの幅広い参加がありました。しかしながら、参加者が固定してきているので、次回からは、出席者の近くにいる会員へ声掛けをお願いすることにしました。最後に、参加者の最年少である学40の会員による中締めで、来年の再会を約して、お開きとしました。

綾川町の池戸会会員の皆様！ 来年の出席をお待ちしています！！



## ■大川支部だより

支部長 千田 良信 (学19)

池戸会大川支部総会・懇親会は、池戸会本部から田辺和司副会長（学20・農学）をお迎えし令和6年9月20日（金）に開催しました。

支部総会では、はじめに6月16日に農学部で開催された池戸会評議員会・総会の報告と「香川県内支部のグランドデザイン～支部の健全な維持・発展に向けて」と題した林宏年（学22・農工）副会長の記念講演の報告を行いました。講演では、全国の少子高齢化社会の進展に伴い、香川県においても人口減少が進み、特に東讃地域は、加速度的に少子化が進み人口が大幅に減少することです。また、県内各支部は、同窓会活動に積極的になれる60歳代から70歳代の会員割合が増加することから、早めに後継者を育成し役員若返りを図ることが今後の課題であるとのことでした。

大川支部においては、毎年会員数が減少しており、今後支部を存続するためにはどうすべきか、支部の活性化を図る方策などについて話し合いをしました。最近では、若い現役会員や再就職の70歳代会員の出席が少なくなっているのが現状であることから、逆に生活や暮らしに時間的ゆとりがあり、健康で元気な80歳代前後の身近な知り合い会員に声掛けして増やしていくことになりました。

懇親会は、卒寿を過ぎて現役で働いておられる農大2卒国方弘様の力強い声による乾杯の音頭で始まり、お互いに久しぶりの再会を喜び、出席した一人ひとりが恒例の近況報告をおこない、会員同士の絆を深め学生時代の思い出話が尽きない楽しい会となりました。

来年は、さらに多くの会員が参加されることを願っています。



## 令和5年度池戸会広島支部総会

池戸会広島支部は、11月第2土曜日を総会を開催する日と定めています。令和5年は11月11日に池戸会本部から渡邊彰先生をお迎えし、広島支部会員14名で開催しました。

いずれの支部も、参加者の減少に悩まされていることですが、広島支部も例外ではありません。初めて、あるいは久しぶりに参加されると、いつもの参加メンバーは興味津々で質問を投げかけます。参加されていない会員は、参加されると非常に歓迎されます。ぜひ、足を向けてほしいものです。

渡邊先生から、香川大学農学部の新況をお聞きし、また、池戸会報やホームページを見ると、素晴らしい研究内容やその実績、誇らしく感じています。

先輩たちの含蓄のある経験談、久しぶりに会談する同窓生たちの近況など不思議と記憶によく残り、集まりを楽しみにしています。



## 仲多度支部だより

宮下 武則 (学24)

令和6年9月7日(土)、地域の絆を深め、支部活動の振り返りと今後の方針を議論するため、仲多度支部総会が善通寺市の「吉風」にて開催されました。田辺和司本部副会長を来賓としてお迎えし、総勢15名での開催となりました。

総会後の会食では、ノンアルコールビールで乾杯した後、美味しい料理をつつきながら、終始ラックスした雰囲気の中、会話が弾み、充実した時間を過ごすことができました。

一方で、近年は支部会員数に対して総会参加者が少ないことや、参加者や役員の高齢化が課題となっています。加えて、この10月からの郵便料金の値上げもあり、活動費の更なる逼迫が予想されます。

そこで、今年はメールやSNSなどの通信手段への協力を呼びかけた結果、若い世代からの賛同が見られました。今後、これらの手段を活用して、若い世代との交流や情報発信を推進していきたいと考えています。

支部全体の活性化を図るため、引き続き新しい世代との交流を大切にし、地域に根ざした支部活動を進めてまいります。来年度も、多くの方々のご参加とご支援をお待ちしております。



## 農芸化学科20回(昭和49年度卒業)

2023年11月25日に高松東急レイホテルで同窓会を行いました。参加者は8名と少なかったですが、2時間いろんな話に盛り上がりました。卒業してから48年になります。40年以上会ってなくて、顔が分からなくなっていたが、すぐに何の違和感もなく話はずみましました。途中卒業してからどうしていたかを簡単に紹介したりして、終わりの時にはさもいつも会っている近所のおっちゃんのように「そしたらみんな元気だな〜!」と別れました。5人で、「農学部に行こう」と河原町から琴電で池戸駅まで行きました。時代は変わってピタバの機械があり、そこでピッ。運転手さんが「切符」と追いかけてくることはありません。スーパーの大崎はなかったですが、マルマンがあり、そこいとおばあちゃんと話していたら、昔いた娘さんだったことが分かり「あんたらも年とったな」と。50年前だからねえ。





## ■坂出支部だより

事務担当 玉井 義和 (学12園芸)

坂出支部は、昭和時代には活動していましたが、その後休眠状態となり、令和に至っていました。そこで、坂出支部再建に向けて、横井清隆先輩 (学7農学) 渡辺秀雄先輩 (学8農学) らのご尽力により、坂出支部再建総会開催の運びとなりました。

令和5年11月12日、坂出グランドホテルにおいて、坂出・宇多津地区の会員9名が出席して再建総会を開催しました。総会には、本部長 岩田豊志様が来賓として出席し祝辞の挨拶を頂いた後、坂出支部代表 (のちに支部長) 横井清隆先輩が再建に至った経緯等について挨拶し、食事会に移りました。食事会では、会員が次々と自己紹介をし、各会員は会社、団体、官公庁で要職に就き、退職あるいは現役として働いていることが報告され、総会は盛況のうちに散会しました。

総会で強く印象に残ったのは、大多数の会員が現役を退いた後、農業をされており、健康で、且つ元気であるという事でした。支部としては、今後若い会員にもっと出席をして頂く方向で活動することを考えています。



令和5年11月12日坂出グランドホテルにて

(前列右から)  
渡邊秀雄 (学8農学)  
松田裕子 (学30園芸)  
石井秀明 (修6農工)  
末包恭久 (学40農業生産)  
桑原信一 (学12農工)  
(後列右から)  
玉井義和 (学12園芸)  
松田英司 (学30園芸)  
横井清隆 (学7農学)  
池川直樹 (学25食品)

## ■徳島支部だより

支部長 川崎 陽通 (学24)

令和5年度徳島支部総会・交流会を、令和5年10月28日(土)「ホテル・グランドパレス」にて、4年ぶりに開催することができました。コロナ禍の影響のため令和元年10月26日(土)の支部総会を最後に、4年間3回の支部総会が中止に追い込まれていました。

今回は、参加への敷居を少しでも下げようとその名称を従来の「総会」から「総会・交流会」と変更しての開催とし、本部からご来賓として農学部准教授の吉原明秀先生のご臨席をいただき、参加者総数22名での開催となりました。参加者数は、少な目ではありましたが、4年ぶりの懐かしさもあり、和気あいあいの楽しいひと時を過ごせたように感じております。写真はその時の集合写真です。

この総会・交流会後の2か月も経ない令和5年12月突然徳島支部役員で永年当支部をお支えいただいていた伊澤賢二(学12)相談役の訃報に接することとなりました。先の総会・交流会にもご出席いただき楽しく歓談させていただいた矢先のこと、ただただ無念、ご冥福をお祈りするばかりであります。

明けて2024年(令和6年)は、池戸会徳島支部設立70年目の節目の年となります。徳島支部は、故富永健治初代支部長等により1954年(昭和29年)に設立されました。

令和6年2月17日7名の出席のもと第1回役員会開催。令和6年の支部活動について議論。

令和6年5月18日8名出席のもと第2回役員会開催。令和6年度支部総会・交流会の開催や会報発刊について話し合いました。

令和6年9月7日9名出席のもと第3回役員会開催。令和6年10月26日に予定している令和6年度支部総会・交流会開催詳細について打合せを行いました。

さて、今の徳島支部の課題とは申しますと、他の支部も同様かとは思いますが、いかに支部を持続可能な組織として維持していくかということにあります。これには大きなポイントが三つあり、一つ目は支部会員の支部活動への関心の低さの問題、二つ目は支部役員会・事務局の高齢化の問題、そしてもう一つは支部活動経費確保の問題であり、それぞれが絡み合ってもあります。これらの問題解決に向け長年模索を続けてきましたが、なかなか抜本的な解決策も見出せないのが現実であります。当面は、支部活動を地道に、そして愚直に続けていかざるを得ないのかと感じているところでもあります。

最後は泣き言のようになりましたが、以上徳島支部だよりと致します。



## ■池戸会県庁支部

岡崎 力 (学33)

令和6年8月16日(金)、高松市内にて令和6年度池戸会香川県庁支部の総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあって、令和元年度の総会からちょうど5年ぶりの開催となりました。この間、世代交代が進む中であって、本会の継続的な運営を可能にするため、運営方法等を見直しを行い、新たな体制で開催することとなりました。

当日は、県庁の関係課に在籍する20代から60代までの会員を中心に14名の出席をいただき、総会後には、世代間を超えてにぎやかに懇親会を楽しみました。

今、本県の農業現場では、燃料や肥料、ビニールなどあらゆる生産資材が軒並み高騰しており、厳しい状況となっています。

池戸会県庁支部の会員は、農業の技術職として、行政・普及・試験研究のそれぞれの分野において、香川大学農学部で学んだことを活かしつつ、団結しながら、本県の農業の持続的な発展を図るため、引き続き取り組んでまいります。



## ■池戸会高松北部3支部同時総会・合同懇親会を盛大に開催!!

高松東部池戸会では、近隣支部との連携活動として、高松支部池戸会と合同で、各支部の総会と合同懇親会を開催していましたが、今年は高松西部池戸会も加わり、令和6年10月20日秋晴れの下、香川大学農学部食堂で3支部同時総会・合同親睦会を開催しました。

当日は、来賓として池戸会本部岩田会長のご臨席を賜り、会員10名が参加して片山支部長の挨拶、会計報告、役員改選が了承された後、林副支部長より今後の近隣支部との連携活動について協議が行われ、今後とも幅広く連携することで了承されました。また、新役員には支部長に林宏年氏(学22)が選任されたほか、若い会員が2名役員に加わりました。

各3支部の総会が終了した後、合同の記念講演として、中西健仁氏(高松西部池戸会長)による「海外青年協力隊の体験記(アフリカ)」と題した講話を行いました。その後、香川大学農学部の多田教授(学28)の案内を頂き、池戸会館、希少糖モニュメント、ズイナの栽培ほ場など学内見学し、食堂前で記念撮影した後、合同懇親会となりました。

合同懇親会では、3支部18名と来賓として岩田会長、本部の多田先生ほか3名の総勢22名が一堂に会し、幹事支部の片山支部長や各来賓からの挨拶、高松支部の木村支部長による乾杯、各会員の自己紹介などを交えて2時間近く懇親を深めました。また、農学部が開発したオリジナルブドウ「香大農R-1」の赤ワインや、同じく農学部が開発した酒米「さぬきよいまい」を使用した純米吟醸酒などを味わった他、大学生協の折詰料理や握り寿司などに舌鼓を打ちました。中締めは高松西部支部の中西会長にお願ひし、2年後の再会を約束し散会となりました。今後とも、本部との交流を継続しつつ、幅広く各支部との連携・会員相互の親睦を図る所存です。

高松東部池戸会 事務局 黒川 幸重 (学25)



農学部食堂前で記念撮影



多田教授の案内で学内を見学

## ■島根支部だより

島根支部長 桑原 克夫 (学22)

島根県支部の桑原です。ここしばらくコロナ禍ということで、活動もできずに過ごしているところです。残念ながら当支部も高齢化で若い卒業生の参加もなく、これまでも活動?(総会・飲み会)しましたが、それでもと、6月16日にありました池戸会の総会には旅行を兼ねて出席させてもらっています。事務局担当と相談しながら、会員の皆さんにも参加してもらえるような企画を考えたいと思います。池戸界隈を歩いてみて、随分、変わったと感じているところです。次回は、何とか良き報告ができればと思っています。

追伸 私も退職後、零細農業をしていますが、年々体力も衰えますが、我が国の農業を支えている高齢者にもよい時代が少しだけでもみられればと思っています。

## 令和6年度東京池戸会総会報告

幹事長 伊藤 研治 (学22)

令和6年7月6日(土)午前11時からパセラリゾーツ新宿靖国通り店において令和6年度東京池戸会定期総会・懇親会を5年ぶりに開催しました。

今回の定期総会には池戸会本部より農学部教授の田淵光昭先生(学37・修25・博9 生命機能科学)にご来賓としてご出席いただきました。今回は会場を新たな場所(新宿)に変更し、会員名簿も刷新して350名の会員に案内状を送付しました。前回から5年の歳月が過ぎた為、転勤や転居等で不参加になった会員もみられましたが、新たに参加の会員含めて11名と田淵先生、当支部の祖父江晋会長(学22)以下5名、総勢17名(学7から学63に亘る幅広い年代)での総会・懇親会となりました。



定期総会では祖父江会長の挨拶をはじめ活動報告、および会計・監査報告等が行われました。また来賓の田淵先生には、ご自身のプロフィールや池戸会の現状に加えて120周年を迎えた農学部の近況など写真を交えてお話しいただき、出席者全員で懐かしくまた興味深く拝聴させていただきました。

続く懇親会は、大崎武久相談役(学7)の乾杯に始まり、出席者全員が自己紹介や近況報告を行い、学生生活の話などで和やかな雰囲気で行われました。最後に今回出席の会員に来年の出席と他の会員への呼び掛けをお願いし、更に多くの会員と再会することを確認して閉会しました。

最後に紙面をお借りしてのお願いですが、関東地区の会員の皆さま、来年の7月の総会には是非とも参加してみてください。

## 高松龍雲支部だより

高松龍雲支部長 白坂 正明 (学1)

高松市内には、池戸会の支部が現在6支部あります。高松龍雲支部は高松南部の一宮町、仏生山町、多肥町、三谷町の旧4町を区域とした池戸会高松龍雲支部として昭和53年2月に発足しました。毎年、総会・懇親会が盛大に開催できておりました。しかし最近では参加者が少なくなり特に新型コロナウイルス感染禍を機に減少してしまいました。また龍雲支部では役員をされていた後輩3名が続いて亡くなり役員の後継者難で困っております。そこで提案ですが高松市内の6支部長等が寄って相談して高松市内は、1つの高松支部に改編合併する方針で、まずは懇親会を6支部合同で開催することを提案いたします。どなたかが音頭を取っていただければ何時でも参りますのでよろしくお願いたします。



この写真は、杉本利行前会長を迎えての龍雲支部の懇親会の懐かしい写真です。

## 生物資源科学科 昭和63年度入学生 同窓会 一見 和彦 (学37)

令和6年2月23日(金・祝日)に、昭和の終わり、昭和63年度に生物資源科学科へ入学した卒業生の同窓会が開催されました。卒業してから初となる同窓会の開催で、会場となった高松市内のおしゃれな居酒屋「虎徹」に全国から24名の同窓生が集まりました。学部を卒業した学生数が70名でしたので、なかなかの参加率です。学部を卒業してから早30数年が経ちますが、当時からはほとんど変わっていない人、すっかり変貌した人、それぞれです。



本同窓会発案者の高根氏から冒頭のご挨拶があった後、参加者の皆さんそれぞれから、卒業してからの苦労話、ご活躍のお話、近況報告が楽しい雰囲気の中でお披露目されました。人生の中で最も自由だった4年間をともに過ごした仲間たち、当時のままの雰囲気で3時間ほどの懇親会を楽しみました。その後はカラオケに雪崩れ込む人、また別のお店でしゃべり込む人、翌日も朝からまた顔を会わせた人、それぞれだったようです。

また折にふれて催されると思いますので、今回は足を運べなかった皆さんも次回はぜひご参加ください。

## ■農芸化学科(学18回)同窓会 (幹事)佐伯 典男、國方 聖三 (文)則井 孝文

久々に晴れた3月27日(2024年)。学18回農芸化学科(1973年3月卒)が、51年ぶりに高松で同窓会を開きました。

入学した69(昭和44)年は全国の大学が学生紛争で荒れ、東京大学が入試を取り止めた年。ストライキで授業がしばしば休講になり、個性に富んだ学生が多い?こともあってまとまらないクラスでした。それでも、今回限りならば出席してみようとみんなの意思がはじめて一致した模様です。

入学23名- (第18回)卒業18名、その内9名が出席。

みんなどんな人相になっているのか、果たしてお互いに分かるだろうか?私はいくらか不安な気持ちで参加しました。ところがお互いに確認出来てからは皆すぐに気持ちがほぐれた様子。

話が盛り上がり、スピーチでもみんなそれぞれ長くしゃべりましたよね。結局のところ、今回限りとせず、元気なうちにぜひ次もやろう。5年以内にと決まりました。

翌28日は農学部見学。有志7名が琴電で農学部に向かい希少糖研究センターで説明を聞きました。何森教授が始められた希少糖研究は我らの誇りです。希少糖D-ブシコースの研究が軌道に乗ってからは国からの予算が少なくなったとのこと。希少糖は100種以上もあるそうで、研究費減額には困っているとの説明でした。クラウドファンディングとか研究費獲得のことも話題となりました。

このたびの集まりに私は満足でした。今回来られなかった方も、次回はぜひ会いましょう。今回連絡はがきが届かなかった方はこちらでは把握できていませんので、幹事か私に早めに住所を知らせてください。こちらの連絡先が不明な方は池戸会事務局に問い合わせてください。それまでみなさんお元気で。



## ■西讃支部

西讃支部幹事 合田 隆弘(学29)

8月24日、本年度の支部総会を開くことができました。場所は前回と同じ第一会館ですが、今回は少し趣の異なるものとなりました。初代支部長の宝城明氏が旭日小授章を受けられ、そのお祝いの会をも兼ねたものと成りました。受章を祝う本格的な会は数日前に行われているのですが、大先輩の功績を支部でも祝いたく、記念品として香大農R-1から絞り出されたワイン「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」を贈ると共に、R-1ワインで乾杯をしました。またお祝いとして、第二代支部長と屋島寮出身者に寮歌を歌っていただきました。

今回、支部の役員変更がありました。第二代支部長の永田陽頼氏と副支部長の岩田豊志氏が顧問となり、新支部長に篠原重寿氏が、また、副支部長には今川雅之氏が決まりました。更に平井秀樹氏が会計監査を退くことと成りました。

前回から、往復ハガキに手書きで「ぜひ」来てほしい旨を、初めて出す人や最近来ていない人に一筆したためました。少しは効果があったようです。返信ハガキに、「今回は参加できないが、次回はぜひ参加したいのでまた誘ってほしい」と記している人もいて、これは続けて行こうと思いました。

以前、五井先生が池戸会会長に就任なされた時、池戸会を盛り上げていく為にと出てきたアイデアが、支部を作り、池戸会全体を活発にしようといったものだったと記憶しています。この支部もそうしてできたのですが、徐々に細ってきています。特に女性の参加者が少なく、どうかして女性を増やそうといった意見が出ました。入学したらすぐに、新入生から池戸会に入る手続きを問われるぐらいの魅力有る会にしたいものです。





## IKENOBEKAI NEWS vol.66

### 会費納入および住所調査のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙又はコンビニ振込にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分まとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。(80歳以上の方は無料です。)また、この会報送付時の宛名紙に印刷された返信ハガキにて最新住所情報等をお寄せ願います。なお、本会報の発送業務は印刷会社に委託しました。

### 池戸会報 vol.66

発行：2024年12月

印刷：2024年12月

発行所：香川大学農学部池戸会

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393

TEL・FAX 087-898-8615

E-mail: ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

郵便振替口座 01620-1-5001 (香川大学農学部池戸会)

編集担当：多田 (学28)、木村 (学31)、奥田 (学34)、  
一見 (学37)、田淵 (学37)、渡邊 (学38)、  
田中 (学40)、五味 (博15)、山口 (修32)、  
米倉 (修32)、吉原 (学49)、杉山 (学50)、  
寺岡 (学52)、松沢 (学53)、田坂 (事務局)

印刷所：小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2-1-6

TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301